

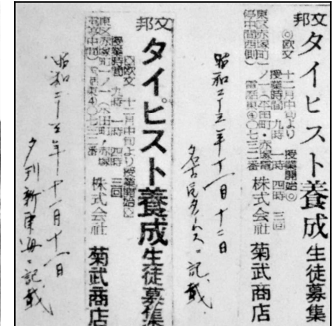
菊武学園におけるタイピスト養成史

—ゆかりの学園に設置されたタイプライター博物館—

■ 菊武タイピスト養成所創立

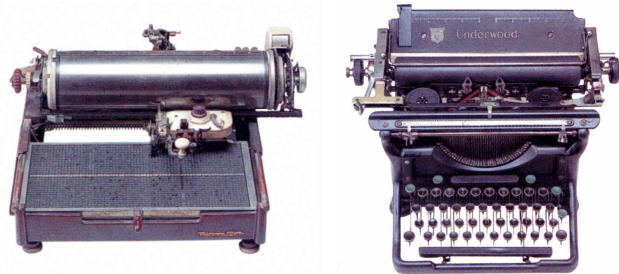
菊武学園の創立は、戦後の爪痕の残る名古屋市中区赤塚で文房具店を営んでいた高木武彦が、24歳の時、戦後日本の復興は貿易が要であり、そのためにはタイピスト養成が欠かせないと考え、1948(昭和23)年11月に、店先に、「菊武タイピスト養成所」の看板を掲げたことに始まる(写真1)。「菊武」の名称は、武彦の母「菊子」の「菊」と自らの名前の「武」を取り組み合わせたものである。

設立当初は校長以下4名、タイプライターは英文10台、和文7台から始まった。その機種は和文は日本タイプライター社製(写真2左)、英文はアンダーウッド(同右)であった。生徒数は夜間を含めて80人程度であり、昼間はガラ空きであったという。その後、生徒数も増え、1953年、菊武タイピスト養成所は愛知県認可学校として設置され、名称も「菊武タイピスト学校」になる。



〔写真1〕 菊武タイピスト養成所（左）と募集広告（右）

出典：『菊武学園三十年史』1978



〔写真2〕 創設時の和文タイプライター(左)と英文タイプライター(右)

出典：菊武学園編『TYPEWRITERS』1999

■ 男女共学から女子教育へ

1960(昭和35)年には、これまでの男女共学を廃止し「菊武タイピスト女学院」に改称して、女子教育だけに力を注ぐことになる。この時、武彦の母が生前に残した「女子教育に専念せよ」の言葉が、真に実現されることになる。時期は前後するが、写真3は1968(昭和36)当時の和文タイプライターの授業風景である。

■ タイプライターからワープロへの移行と男女共学へ

タイピストの需要拡大とともに、1970(昭和45)年、菊武タイピスト女学院は、中卒3年コースを設けて高校卒業資格が得られるようになる。1976年には、専修学校令により「女学院」を廃止し、菊武タイピスト専門学校となり、1984年にはタイピストが消え校名も菊武経済専門学校になる。この時期は、タイプライターがワープロに代わる過渡期であり、専門学校は技術進歩とともに学校名もめまぐるしく変わるのである。タイピスト養成の最盛期は1965年であり、その年度の卒業生数は702名であった。



〔写真3〕 和文タイプライティングの授業風景

出典：菊武学園創立七十周年記念誌『愛情教育』2019

■ タイプライター博物館

菊武学園は、1998(平成10)年、創立50周年記念事業を行い、タイプライターの技術進歩と、タイピスト養成に見るように職業教育を学園の教育理念として掲げるため、これまでに収集してきたタイプライターを展示するタイプライター博物館を設けた。現在、英

文タイプライターが大多数を占めるが、和文英文合わせで137台が展示されている。（高木清秀、三宅章介）



〔写真4〕 菊武学園タイプライター博物館

所在地：愛知県尾張旭市新居町山の田3255-5
名古屋産業大学内
開館時間：午前10時～午後4時
休館日：大学の休日
アクセス：名鉄・尾張旭駅より徒歩10分
電話：05651-55-5101